

えんだより

2020年
8月号



NO. 173
シャローム三育保育園

今年の夏は熱中症や水の事故等の他に感染症にも気を付けなければなりませんね。いつもとは違う夏かもしれません、一度きりの今年の夏をみんなのアイディアで楽しい思い出をたくさん作ってください。

園長 村上 渉

掲示板練習メッセージ8月1日頃配信いたします

《お知らせ》

うさぎ組担任の〇〇〇保育士が結婚され 〇〇〇保育士になりましたので
よろしく申し上げます。



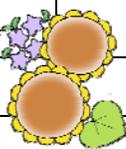
8月24日(月)～9月5日(土) 湘北短期大学 2年生 1名
本園で実習をいたします。良い学びが出来ますようご協力お願いいたします。



今月の予定



日	月	火	水	木	金	土
2	3 礼拝	4	5	6 英語教室 (3.4.5 歳児)	7	1 / 8
9	10 山の日	11	12 避難訓練	13 英語教室 (3.4.5 歳児)	14	15
16	17 礼拝	18	19	20 英語教室 (3.4.5 歳児)	21	22
23	24 礼拝	25 体操教室	26 誕生会	27	28 保育園職員会	29
30	31 礼拝					



「夏の思い出」

先日、小学生の娘が蚕を持って帰ってきたことから、夏の思い出を一つ思い出しました。皆さんの中にも小学生の時に蚕の飼育体験をした方も多いと思います。ご存じの通り蚕は絹糸の原料になる繭を作ります。日本でも養蚕は北関東から南東北で盛んにおこなわれていましたが、近年では養蚕を手掛ける農家もだいぶ減りました。私の故郷でも子どもの頃は近所に養蚕をする農家が多く、夏休みの小遣い稼ぎに良く手伝いに行きました。広くて薄暗い納屋に段々ベッドのような床があり、蚕がカサカサと桑の葉っぱを食べる音を覚えています。毎日の餌やりや掃除を二週間以上繰り返し、6～8cmぐらいになった蚕を「蚕ひかし(方言)」といって繭を作るために区画された簇(まぶし)に移したり、とても手間のかかる大変な作業でした。触った感じはヒンヤリ、スペースで頭の模様(眼状紋)が顔のようで愛嬌がありますよね。皆は「お蚕様」と呼んで一匹一匹大切に扱っていました。繭を作り終わると繭から糸を取るための処理を施すため、ほとんどの蚕は成虫に孵ること無く、私たち人間の生活用品としての役割を全うするわけです。

夏の虫といえばカブトムシ、セミ、カマキリなど、特に男子たちを夢中にさせる虫たちです。保育園でもカブトムシは一年中子どもたちがお世話をしていますし、初夏になるとアゲハ蝶を卵から飼育して、羽化したときは本当に感動します。生き物に触れる、育てる経験は心を豊かにし命の大切さを学びます。



7月の讚美歌「あの空はどうして…」の歌詞には、あの空はどうして青いの？あの鳥はどうして飛べるの？この花はどうして咲いたの？この虫はどうして羽鳴らすの？それは・・・とあります。どんなに小さくてもちゃんとその意味があるということです。今年の夏は、いろいろと制限された中で過ごすこととなりますが、毎日の一つ一つの経験や小さな感動が子どもたちの心の育ちに繋がっていることを忘れずに過ごしたいものです。